

コロナ禍が私たちに気づかせた「健康」の大切さ



世の中で起こっている出来事や物事には、良い面、悪い面必ず二面性があります。近年の大きな出来事としては、世の中が翻弄された(されている)新型コロナウイルスのパンデミックは、望まないネガティブな面が多いとは思いますが、コロナ禍でさえ気づいたこと、得たものがあったはずで

皆さんはコロナ禍を通して何に気づきましたか?そこから何を得ましたか?

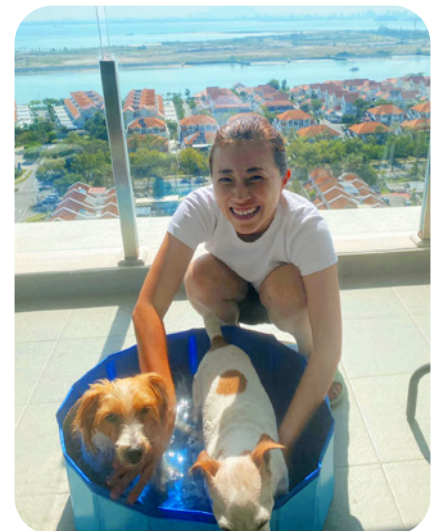
この時代に新しく得られた気づきや生活・行動の変化として、「健康の大切さを意識するようになった」と答えた方が8割以上との調査結果もあります(新型コロナウイルス感染症に関わる全国労働者オンライン調査より)。

では皆さんが考える「健康」とはなんですか?

WHO(世界保健機関)の定義は「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされている状態にあること」としています。

実際すべては相互に繋がっていますが、わたしが考える肉体的、精神的に健康になるための三大要素は栄養・運動・休養(睡眠)です。

「栄養」は『食べたもので自分はできている』『人を良くすると書いて食』の基本的な考えを忘れずに、手の込んだ華やかなものでなくても、シンプルで栄養のあるものを食べることに、継続の難しい完璧な食事を目指す前に暴飲暴食や、糖分・油分・塩分の多いものを控えるなど「やめる」を意識してみるなど。わたくしごとですが、昨年マレーシアに移住してからお酒を卒業しました。マレーシアでは宗教上の理由でお酒を飲まない人が多く、価格も高いため。以前から多く飲んでいただけでないものの、これがきっかけとなりやめました。目覚めが良く睡眠の質が上がった、体重が減った、体調やコンディションが明らかによくなった、夜の時間



を有意義に使えるなど、得たものの多さに正直驚きました。ロックダウンで飲酒量が増えたというデータや、一方イギリス発の運動で、健康のために1ヶ月お酒をやめるドライジャーニアリー(1年のスタートの1月にお酒との付き合い方を見直す禁酒運動)というものもあります。もし心のどこかに控えてみようかな、やめてもいいかな、と思う方がいらっしゃればこれがきっかけになればとても嬉しいです。

「運動」もあまり難しく考えず、一駅分歩く、食後散歩するなどご自身が継続できることからスタートしてみてください。「休養(睡眠)」は十分な質の高い睡眠をとることが大切です。これは不規則な食事、運動不足、アルコール過飲などによって悪化するのでこれらを改善することがポイントになります。

では「社会的」に健康である、満たされるとはどのようなことでしょうか。自分以外の人や社会と健全な繋がりを築き、自分の役割・居場所があると感じられる状態でしょうか。それには他人との関わりを大事にし、お互いを思いやり、存在価値を認めあうことが大切なのではないでしょうか。マレーシアは典型的な多民族国家で、マレー系・中華系・インド系など多種多様の文化、宗教が存在しています。子供たちが通うスクールは30か国以上の家族が集まり、お互いの異なる価値観や生活スタイルを理解し、認めあうという、寛容性や多様性の大切さを日々感じています。これはマレーシアだけに限ったことではなく、世界各国共通する大切な考えではないかと思えます。

またコロナ禍において他者との繋がりが希薄になってしまった今あらためて考えたいテーマでもあります。

新型コロナによる未曾有の災禍から得た学びを活かし、健康で明るい未来を作っていきたいものです。

最後に、LFPIに微力ながらご協力させていただき光栄です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

LFPI外部アドバイザー／
アスリートフードマイスター・健康管理士一般指導員

村
山
彩

SDGs講演会

テ ー マ：SDGsの基礎と活用例、及びカーボンニュートラルについて

日 時：2023年2月22日(水) 13:30~17:00

場 所：JNCフィルター株式会社、オンライン(Zoom) ハイブリッド開催

参 加 者：30名

【目的】

SDGsの基礎や、SDGsに関する活動の例について理解を深める

【内容】

講演1 SDGsの概要と大阪商工会議所活動紹介

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標」のことであり、世界の共通言語とも言える。日本においては「2050年カーボンニュートラル宣言」など、SDGsのメインストリーム化が進んでいる。

最近の民間企業では次の3種類の温室効果ガス排出量の開示が求められており、これらの合計値は「サプライチェーン排出量」と呼ばれている。

Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

Scope2 他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3 Scope1、2以外の間接排出(事業者活動に関する他社の排出)

このようにサプライチェーン排出量は、事業者自らの排出だけではなく、事業活動に関するあらゆる排出を合計したものとなる。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガスの排出量である。

SDGsに取り組むためには、まず「持続可能な開発のためのアジェンダ」(総務省統計制度担当)や「持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド「第2版」(資料編)」(環境省)に目を通し、SDGsについて理解して会社内で課題を見つけることから始める。SDGsは会社の中にあるため、新しく何かを始める必要はない。企業理念とSDGsの活動内容を合わせて、ビジネスに活かしていくことが重要である。

講演2 ツバル国におけるSDGs –課題と展望–

ツバル国は太平洋に位置する国であり、環状のサンゴ礁基盤の上に形成された島である。この国では、有孔虫や貝殻などがサンゴ礁生態系から海流に乗って海岸に蓄積されて、島の維持形成のシステムが維持される仕組みとなっている。このシステムが、地球温暖化による海面上昇によって維持できなくなり、島の防波機能低下などで州島浸食の可能性があることが問題となっている(サンゴ礁の成長スピードが海面上昇に追い付かないため)。

もう一つの問題は、沿岸域への汚染物質の流出である。この国では浄化槽があるが、メンテナンスによる維持管理を省略するために底が付いておらず、底のない浄化槽から地下を通じてし尿が流出していることが明らかとなった。これは、沿岸水の大腸菌数と浄化槽内の水位が潮汐に応じて変動しているという調査結果から判明した。

研究活動を通じて見えてきた課題をSDGsと照らし合わせると、有孔虫や貝殻などのサンゴ礁生態系による地形維持システムの弱体化の問題に対する活動は、「社会基盤としての国土の維持」の観点から、「目標9：産業と技術革新の基盤を作ろう」に該当するのではないかとと思われる。自然のプロセスを強化するか、人工構造物で対応するかが対策となりえるが、人工物においてはメンテナンスにかかるコストが課題になるであろう。

講演3 カーボンニュートラルに向けた技術と課題

世界のCO₂排出量が大きく減少したとき(コロナウイルス流行時など)、経済(GDP、所得)は悪化していた。このことから、経済成長を促しながらCO₂排出量を減らすことは、困難な状況にあることが分かる。

CO₂排出量を減らすために、再生可能エネルギー(風力、太陽光)の使用が世界中で求められているが、国間でコストの差があり、日本の価格は高い。この差は国土の特徴などによって生まれるもので、この先も差が縮まることはないだろう。海外の再生エネルギーを国内で水素や合成メタンとして活用していくことが、経済的に合理性がある状態である。

カーボンニュートラル施策の代表である省エネは、日本ではかなり進展しているが、それでもまだ費用対効果が比較的高い対策も残っている。将来的には費用対効果を見極め、技術を絞り込んでいくことも必要だが、現時点では万能な技術はなく、「あらゆる選択肢を追求」することが必要である。

現在でも行われているSDGs活動において、一つ一つの企業での効果は小さい場合も多いが、日本全体で積み上げれば、CO₂の排出削減効果としても十分大きく期待できる。したがって大企業だけでなく、中小企業もScope1~3の温室効果ガス排出量の見える化等の取り組みは重要である。特に日本のCO₂排出量の約40%を占める「エネルギー転換部門」においては一次エネルギーを見直していくことこそが、カーボンニュートラルにつながるのではないかと考えられる。



摂南大学 佐藤 様



大阪商工会議所 大西 様



地球環境産業技術研究機構 秋元 様

【所感】

SDGsという言葉も、最近ではテレビやラジオ等のメディアで取り上げられるようになってきました。しかし、いざ自分がSDGsに関する活動をしようとしても、「具体的に何から始めるべきか？」という疑問だけが残り、何も始められない状態が続いていました。

今回の講演会を通じて、他社のSDGsに関する活動例や取り組み方について学び、SDGsについてのイメージが具体的になりました。無理に新しいことを始めようとせずに、会社内の小さなことから始めていくことこそが、SDGsの取り組みとして重要なことだと思いました。

〈ニチダイフィルタ株式会社 技術部 技術課 大谷 啓介〉



講演会の様子

技術者養成セミナー

日 時：2023年3月6日

方 式：オンライン開催 (Zoom)

参加者：62名

【内容】

講演1 急速ろ過

講師：株式会社トーケミ 長續 雄太氏

ろ過の定義、ろ材の種類、急速ろ過の概要、懸濁物質除去のメカニズム、LVとSVの使い分け等をご説明いただきました。除濁や接触酸化のメカニズム等、目で直接見ることができない現象についても図を用いてご解説くださり、イメージを掴むことができました。

講演1 急速ろ過

講演2 UFの基礎

講師：岩井ファルマテック株式会社 中川 明郎 氏

分子量と分子径、膜の構造や素材と特性、モジュールの種類、阻止率や透過流速の計算式等をご説明いただきました。濃縮・分離のフローと工程については、アニメーションを用いて丁寧にご解説くださいました。

講演2 限外ろ過

講演3 イオン交換

講師：オルガノ株式会社 横田 治雄 氏

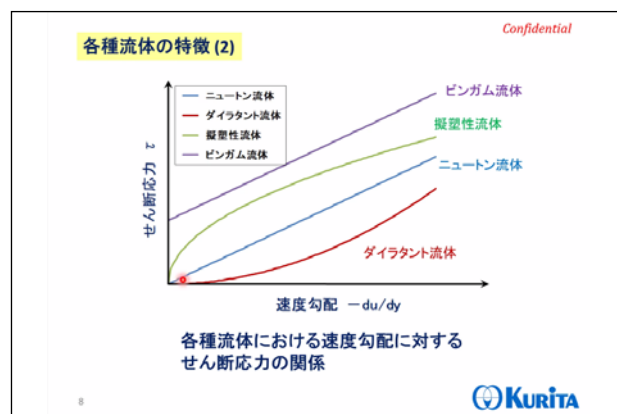
イオン交換樹脂の種類、用途、選択性、再生、各イオン交換樹脂の特徴と反応等についてご紹介いただきました。各交換樹脂の反応式や選択性についても分かりやすく纏めていただきました。

演題3 イオン交換

講演4 流体力学

講師：栗田工業株式会社 岩崎 守 氏

流体の性質、レイノルズ数、ベルヌーイの定理といった基礎事項から、円管内の流れやポンプ輸送について高校物理の基本定理を用いて丁寧にご解説くださいました。また、例題もご準備くださり、セミナー終了後に各自の理解の定着が図れるようにもしてくださいました。



講演4 流体力学

【所感】

水処理プロセスの各技術について基礎から学ぶことができる、貴重な機会を頂きありがとうございました。原理から丁寧にご解説いただき、これまでの漠然とした理解から理解を深めることができました。

〈三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社 技術統括室 技術管理部 応用解析Gr. 古谷 裕子〉

FILTECH2023 出展報告

テーマ：東洋スクリーン工業株式会社および安積濾紙株式会社 出展ご報告

日時：2023年2月14日(火)～16日(木)

【内容】

2023年2月14日(火)～16日(木)ドイツケルン市ケルンメッセにて開催の「FILTECH2023」に東洋スクリーン工業株式会社と安積濾紙株式会社が出展した。なお、本展示会の来場者数は16,750人、出展ブース数は438ブースであった。

東洋スクリーン工業株式会社

初出展。フィルターに特化した世界規模の展示会と謳われていたが弊社が国内出展している展示と比較すると規模が小さい。目新しい技術や製品が有るか期待していたが、これと言った技術や製品は無く、業界としては成熟している業界なのか、と感じた。

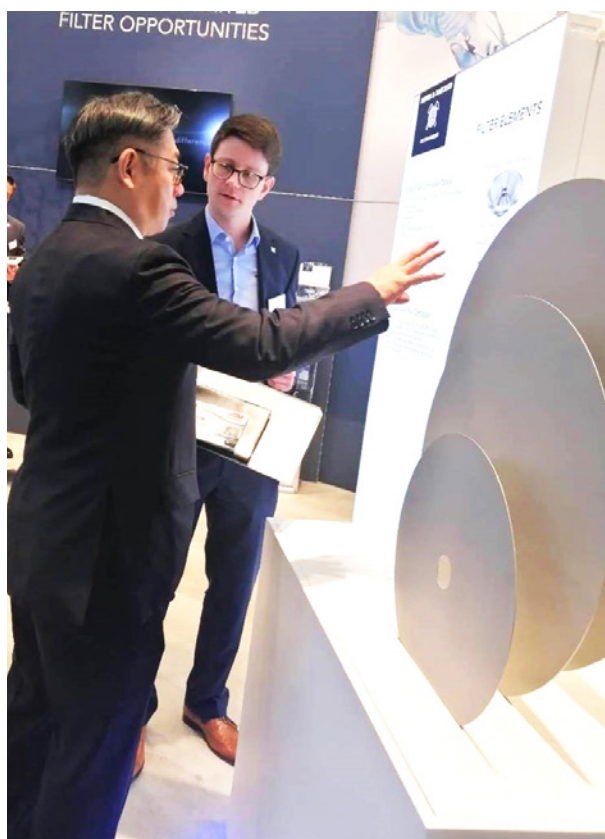
ブース訪問で一番多いのが地元ドイツで、次にインド、トルコ、イタリア。業界としては、金属製のフィルターや装置メーカーの情報収集。次に食品業界だった。



FILTECH2023 東洋スクリーン①



FILTECH2023 東洋スクリーン②



FILTECH2023 東洋スクリーン③

安積濾紙株式会社

長年のパートナーシップを継続しているレンチング・グループ(本社：オーストリア、以下レンチング社)と共同出展し、半合成セルロース繊維「レンチング(TM) リヨセル繊維」を原料とするフィルター製品を展示、具体的な用途例を紹介した。

当社のリヨセル繊維を配合した濾紙を使用したカートリッジフィルタに多く興味を持って頂け、海外ユーザーにプレゼンする良い機会だった。地元ドイツだけでなくイタリアや中東の企業にも興味を持って頂けた。

国際的な展示会で製品説明するなかで、国内では気づかなかった当社の強みや弱みを改めて実感できた。

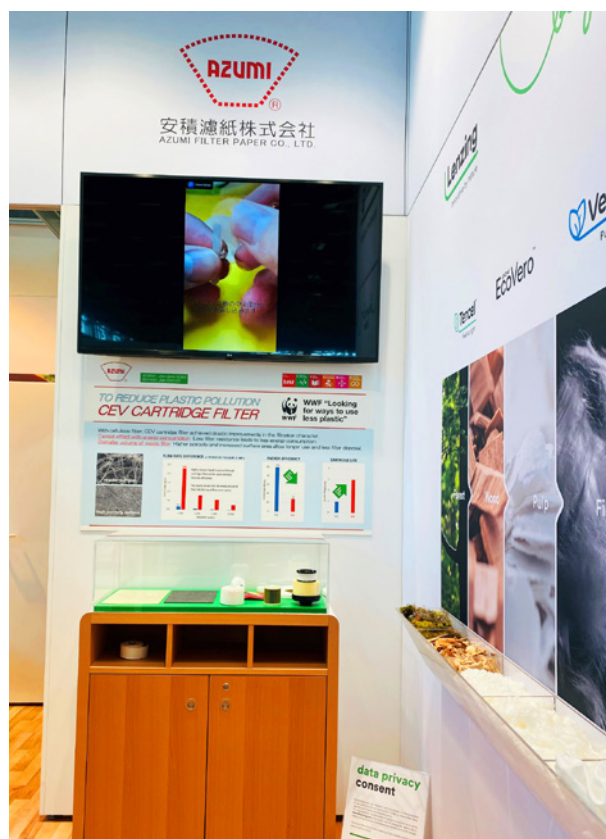
さらにはメキシコや北欧の国など、普段会うことがない顧客も訪問下さり、ヨーロッパまで来た甲斐を強く実感した。



FILTECH2023 安積濾紙①



FILTECH2023 安積濾紙③



FILTECH2023 安積濾紙②

【所感】

展示会開催期間中には多くのアクシデントに見舞われた。初日にはケルン市内タクシー会社がストライキで開始時間に到着できず。最終日にはドイツ三大カーニバルのひとつケルンカーニバル「女性のカーニバルの日(Weiberfastnacht)とも重なったため、老若女性がコスチュームを楽しみ街中が歩行者天国のバルになり、歩けないほどだった。さらには、その翌日にはドイツ空港職員のストライキによりフライトが欠航、そのため、オランダまでの電車を探して移動しなければならなくなった。

展示会場内では、恒例のホットドッグやプレッツェルを無料提供するドイツ濾過企業、おしゃれなトートバッグ配布のブース、チョコレートで呼込む(わが)ブースと引水策がいろいろで興味深い。

普段体験できないことばかりの展示会出張でしたが、多くの気づきを得られたことから大変貴重な思い出となった。これからも積極的に海外に向けて情報発信を続けていきたいと思う。

〈安積濾紙株式会社 営業部海外営業Gr. 森 真理子〉



Friesenstr通り ケルンカーニバルの夜



ケルン駅



ケルン大聖堂



ケルンカーニバル「Weiberfastnacht 女性の日」

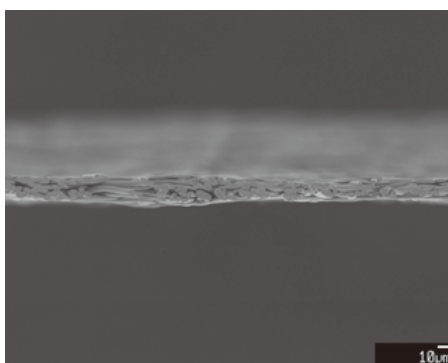
企業紹介 帝人フロンティア株式会社

帝人フロンティアは、繊維を原料に製品を「つくる」メーカーの機能と、顧客と市場を「つなぐ」商社の機能、両方を併せ持つ企業体である。

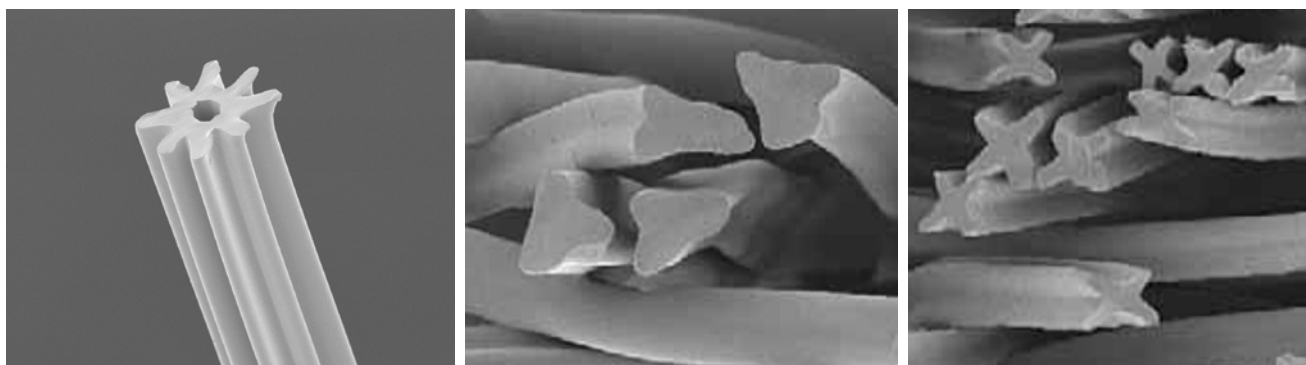
ポリエステル繊維メーカーとして、衣料用途、産業用途ともに様々な製品を展開している。今回は、ポリエステル繊維の中でも、湿式不織布用ポリエステル短繊維「テピルス®」について紹介する。

「テピルス®」は、40年以上の販売実績を持つ、安定した機械的物性と優れた水中分散性をもつポリエステル繊維である。現行のラインナップは、繊度0.06~8.0dtex、カット長3~20mmを取り揃えている。ポリエステル繊維を使用した湿式不織布は、強度・耐熱性・平滑性等という点を活かして、フィルター基材、壁紙、食品包材等、様々な用途で使用されている。

帝人フロンティアの独自製法により、0.2dtex以下の極細繊維の量産化に成功している。極細繊維を使用することにより、孔径が小さく緻密で、薄く均一な不織布を作ることができる。



低密度・嵩高な不織布を作ることが目的として、異形断面・捲縮繊維も開発している。



湿式不織布は、繊維の配合・目付・製造工程での調整により、孔径・厚み・通気度等のコントロールが可能である。フィルター用途においては、ろ過対象物によって繊維・不織布の構造をカスタマイズし、基材の最適化に貢献していく。

〈帝人フロンティア株式会社 短繊維素材第二部 山田 巖浩・山元 あかり〉

企業紹介

協和機電工業株式会社

協和機電工業株式会社は1948年に創業して以来、「水」と「電気」を中心とした社会インフラ事業について、研究開発からシステム設計・製造・施工・設備保全までワンストップで提供する総合プラントエンジニアリング会社です。

主要な製品としては、自動除塵機・掻寄機・コンベア等の上下水道設備に係わる大型の機器や、福岡の海の中道奈多海水淡水化センターの建設、沖縄および離島向けの小規模の海水淡水化設備等を納入しております。民間向けでは、メッキ工場や食品工場等の排水処理設備や、造水設備等の多数の納入実績があります。独自製品としては、凝集剤不使用で5 μ m程度の微粒子除去し、省スペースで大量に処理可能な高性能繊維ろ過装置「F-CAP」を開発・販売しています。

また、新規事業としては、海水淡水化施設からの濃縮海水を利用した浸透圧発電の研究開発を進め、世界のトップランナーとして牽引してきました。浸透圧発電は、塩水と淡水の塩分濃度差で生じる浸透現象によって、低圧で供給した淡水から高圧で供給した塩水側へ水が浸透することで増加するエネルギーを用いて水車を回して発電する技術であり、現在は国内外の海水淡水化施設向けへの事業展開を進めています。近い将来には、一般海水を使って世界中の海岸沿いの下水処理場で発電可能な再生可能エネルギーとして、世に広く普及することを目指しています。

海外拠点としては、中国・ベトナムに現地法人があり、日本の優れた技術を現地化しながら、東南アジアを中心とした海外でのSDGsにも貢献できる水処理技術を提供しています。

〈協和機電工業株式会社 事業開発部 上山 哲郎〉



自動除塵機



海水淡水化設備 (造水量 400m³/day)



高性能繊維ろ過機「F-CAP[®]」



技術委員のつぶやき話(その52)

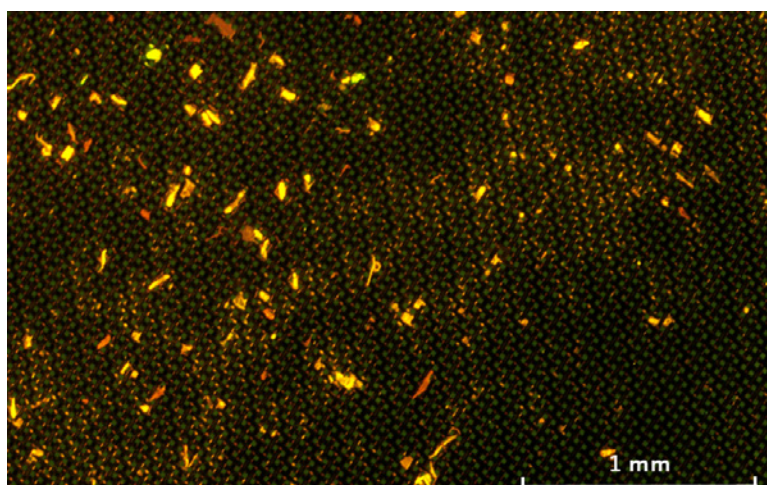
関東学院大学 鎌田 素之

< 電気ケトルから数億個のマイクロプラスチックが溶出している!? >

昨今、話題のマイクロプラスチック(以下MP)について大変興味深い論文を読む機会があったので紹介したいと思う。MPとは大きさが5mm以下のプラスチックを指し、最近ではさらに小さなものをナノプラスチックと呼ぶこともある。我々が排出したプラスチックが環境中で細分化されて生成する場合やマイクロビーズ等が直接排出されることに起因する。我が国の河川や海のMP濃度は高くても数個~数十個/m³であり、実際に水環境試料を分析するとなると大量の水を濾過する必要がある。私はこれまで水道水中のMPの分析を行っており、一定数のMPが蛇口水からも検出されることを確認してきた。水道水に含まれるMPの起源は水源や配水管や給水装置など様々な要因が考えられ、現在、それらの詳細を明らかにすべく研究を進めている。

で、今日紹介する論文は「The influence of drinking water constituents on the level of microplastic release from plastic kettles」で、日本語にすると「プラスチック製ケトルからのMP溶出に及ぼす飲料水成分の影響」でしょうか？内容はざっくり記すと飲料水中に含まれるミネラル分が電気ケトルから溶出を抑制するというもので、なるほど、電気ケトルにスケールができて、MPの溶出が抑制されるくらいに思い読んで見ると凄いことが書いてある。新しい電気ケトルからは1ℓ当たり数億個のMPが溶出しているが、使用を重ねるとミネラル分がMPの溶出を90%程度抑制するとのことである。久々に論文を読んでいて??? が頭の中を巡ることに。水環境中では1m³当たり数個のMPを研究者が頑張って測っているのに、電気ケトルを使うと1ℓ当たり数億個のMPが溶出し、しかもそれを飲んでいる・・・MPのヒトを含めた生物への影響については様々な研究が行われており、確たる情報が出てくるまでにはまだ時間が掛かるが、莫大な濃度でMPが含まれるケトルのお湯を飲んでいることはかなり衝撃的であった。

関連する論文を調べると紅茶のティーパック、コーヒーのドリッパー、使い捨ての紙コップなどからもお湯を入れることで大量のMPが溶出することが報告されていました。つぶやきなのであまり長くなるとよくないのでこのあたりで終わりたいと思うが、興味のある方は是非、紹介した論文を御一読下さい。写真はうちのラボで実際に電気ケトルを買って、MPを分析した際の画像です。光っているのがMPになり、水道水の数万倍の濃度でMPが存在することを確認した。



情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました

第29回

（ ChatGPTとチャットしました ）

LFPIについて伺ってみました。

Q あなた「日本液体清澄化技術工業会とは何ですか？」

A ChatGPT「日本液体清澄化技術工業会(にはんえきたいぎじゅつこうぎょうかい、英語: Japan Liquid Coagulaant & Flocculant Industry Association)は、日本の液体清澄化技術に関する業界団体です。この団体は、液体の浄化、清澄、凝集、沈降、分離、濃縮、固液分離などの技術に関する製品、装置、技術、サービスの提供を行っています。また、会員企業の相互交流や情報交換、研究開発の促進などもおこなっています。日本液体清澄化技術工業会は、1972年に設立され、現在は約40社の企業が加盟しています。主要な会員企業には、液体清澄化剤の製造・販売を行い企業や、清澄化設備・システムの製造・販売を行う企業などもあります。」

評点: 85点。ネット情報を簡潔に違和感のない日本語化技量はAIとは思えない出来栄え。

減点理由: 数字の間違い。「1972年に設立」「約40社の企業が加盟」とはどこから出てきた数字なのか？

弊社について伺ってみました。

Q あなた「エンドレスハウザー ジャパンとは何ですか？」

A ChatGPT「エンドレスハウザー ジャパンは、日本におけるオートモーティブパーツメーカーであり、～中略～、ドリフトカーシーンでのパーツ供給や技術支援も行っています。」

評点: 0点。車好きに馴染の別会社のことでした。AI判断基準に興味あり。

減点理由: 残念ながら弊社ではドリフトカーシーンに技術支援は行っておりません。

弊社をアルファベット名で伺ってみました。

Q あなた「Endress Hauser Japanとは何ですか？」

A ChatGPT「Endress Hauser Japanは、日本におけるEndress+Hauserグループの現地法人です。自動化技術分野において、計測機器やソリューションを提供しています。主に、プロセス産業における計測・制御・自動化システムや、ウォーター&ウォーストウォーター、飲料・食品、製薬などの業界における機器・ソフトウェアの開発・販売・サポートを行っています。また、トレーニングや専門コンサルティングなどのサービスも提供しています。」

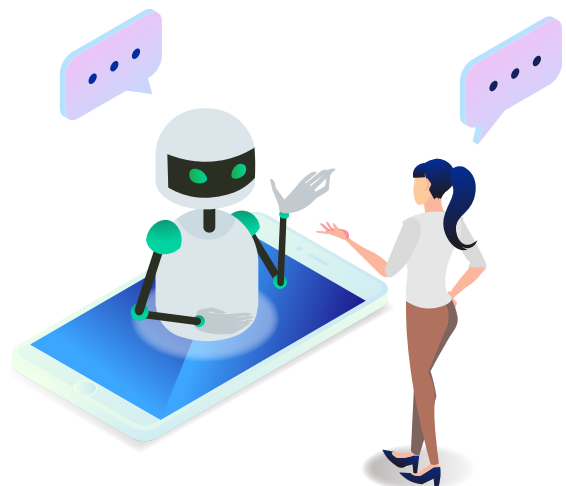
評点: 99点・・・これほど完結にきれいな文章の出来栄えは弊社内でもない。虚偽無し。

減点理由: 高い翻訳能力にして「Waste Water」をカタカナかつ微妙に「ウォースト」。「水と排水(廃水)」を敢えて日本語にしないAI判断基準なのか、カタカナの方がカッコよく見えると判断する最先端の感情機能搭載AIの可能性はあるのか？ないのか？

.....
スカイネット(映画ターミネーター)実現まで秒読みか・・・To be continued.

お試しあれ → <https://chat-gpt.org/chat>

〈エンドレスハウザー ジャパン株式会社 山本 和彦〉





私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

石川金網株式会社



「逃げれば一つ、 進めば二つの」の心持

営業部 萩原 崇

この度は自己紹介の機会をいただきまして、ありがとうございます。

石川金網株式会社入社4年目の萩原崇と申します。業務内容としては営業を中心に製造まで諸々を兼任させていただいております。製造職として入社し、また人見知りであった為、営業職に対して当初は多少の困惑もありましたが、今となっては良い経験をさせていただけて良かったと感じております。営業職に就く以前は面識のない方と接する事に苦手意識を持っておりましたが、電話口や直接お客様と接していく内に徐々に慣れていき、今ではすっかり苦手意識もなくなりました。プライベートでもこの経験が生きており、私は趣味でカードゲームをするのですが、以前は同じ趣味を持った方を前にしても、なかなか自分から距離を縮めていけず、友人を作る事が苦手でしたが、今では同じ趣味を持っている方に積極的に話しかけていけるようになり、友人ができ、休日を楽しく過ごす事ができております。ここまで書いてきて、結局何を伝えたかったかと言いますと、たまには苦手な事と向き合ってみると自分自身の意外な成長に繋がる事もあったりするという経験談をお伝えしたかった次第です。私自身まだまだ苦手な事が多々あり、偉そうな事を言えるような立場ではありませんが、みなさんもたまには『逃げれば一つ、進めば二つ』の心持ちでご自身の苦手な事に挑んでみてはいかがでしょうか。

最後にこんな拙い文章に最後までお付き合いいただき誠にありがとうございました。



私たちも頑張ってます! ~若手社員の仕事風景~

株式会社NBCメッシュテック



ホッとすると同時に
とてもやりがいを感じました

産資営業部 大山はるか

私は現在、産資営業部産資チームにて、粉末のふるい、イヤホン・ヘッドフォン等音響メッシュ、エアコン等のフィルター、液体濾過メッシュ等、多種多様な用途のあらゆるジャンルのお客様にメッシュを提案する営業を行っております。加えて製造とお客様のつなぎ役として、納期調整や品質についての取り決めなども行っています。

配属になってから一番嬉しかったことは、社内、外注先と連携して1つの製品を形にできたことです。社内ではメッシュの縫製品を、外注先では縫製品を入れるケースを作成しセットで販売するもので、1つの製品に関わる部門が今までで一番多い案件でした。お客様との打ち合わせ内容を簡単な図にまとめ、実際の加工方法やコスト低減策について、製販問わず社内の方々に相談に乗っていただきました。また外注先でもパーツ1つ1つの選定や、より使いやすくなる細かい仕様変更について、一緒に検討していただきました。たくさんの方々の協力を得て形になった製品を全てまとめて実際に見たときには、ホッとすると同時にとてもやりがいを感じました。

現在、のびのびと日々の業務に取り組めているのは先輩方のおかげであり、部署の隔たりなく、なんでも相談できるという安心感が一番大きいと思います。これからも先輩方の背中を追いながら、より一層売上に貢献できるよう知識と経験を積んでいきます。

協力会員研究室紹介

大阪電気通信大学(工学部 環境科学科)

私の研究室では凝集・沈降・濾過・遠心分離を中心とした固液分離工学に関する研究を元気の学生達と取り組んでいます。私自身は化学の専門分野で博士号を取得し、その後、この分野の研究に取り組むようになりました。そのため、凝集操作などの化学物質に関わる部分については、とりわけ興味を持っています。最近の研究テーマを挙げますと、新規の高分子凝集剤の効率的利用法、タンパク質を含むソフトコロイド懸濁液の濾過操作、食品系試料の遠心分離操作などについて検討を進めています。

LFPIでは、技術委員関西支部および青年部会関西支部に所属しています。現場の液体清澄化技術者の方の生の声を聞くとても貴重な機会という想いでこの会に参加しています。よく大学の研究成果を、花開き実結する可能性のある「シーズ(種、Seeds)」と表現します。その種となる発想・着想は現場の問題点から見つかるのではないかと私は考えます。是非ともLFPIが活発な技術交流の場としてこれからも盛り上がっていき、ここから生まれた種が世界の水環境の問題解決につながるような未来の技術に育まれることを願っています。

せっかくの機会ですので、大学について少し紹介させていただきます。私が所属する大阪電気通信大学は大阪の北部、北河内地域の寝屋川市にキャンパスがあります。2022年春に寝屋川キャンパスのリニューアルがあり、学科・研究室間の仕切りがないオープンな環境で教育・研究活動を実施しています。さすがに、化学物質を扱う実験室は開放しておりませんが、それでも廊下側の壁はガラスで学生さん達の研究の様子が見えるようになっています。この研究環境から様々な分野が融合した先端技術をイノベーションしていきたいと思っています。近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。

最後に、液体清澄化技術を支える技術者に大学の学生さん達を導いていきたいと私は強く思っています。そのためLFPIが、大学生と会員企業様との人的な交流の場としてもっと発展していくことを私は期待しています。

〈大阪電気通信大学 工学部 環境科学科 田中 孝徳〉



会員情報

★新規会員様のご紹介

【特別個人会員】

澤田 繁樹 様(アドバイザー)

※3月末日付で前職「三菱ケミカルアクア・ソリューションズ」を退社されたため、4月からは特別個人会員としてアドバイザーを継続頂くことになりました。

会からのお知らせ

★バナー広告のご利用されましたか？

会員特典の活用：製品・企業認知度アップ！
会員・閲覧者皆様へのご紹介に最適



効果：コンタクト作り

- ・会員企業様
- ・一般のビジター

リンク：詳細とお申込み

<https://www.lfpi.org/ad/>



編集後記

3月中旬です。「ビールの自然誌」という本の中に「人を獣と分かつ大きな特徴は二つ、未来に対する恐怖と発酵した酒への欲求」と200年前に美食家ジャン・アンテルム・ブリア＝サヴァランが記したとのこと。3月13日からマスク着用は個人の判断となりコロナ禍に一区切り。同時に未来への途切れない不安要素がメディアで後を絶たない。私はといえば、花見と共にする発酵したお酒を吟味中。サヴァランの定義に追記できるなら、桜の開花を待ち焦がれるような未来への「期待」を追加したい。まだ見ぬ恐怖もお酒も人がなす技。お酒・飲料製造・処理に欠かせない液体分離技術も人がなす技、と同時に社会・環境に貢献する技。環境問題の恐怖を期待に変える技…NL103号はいかがだったでしょうか。LFPIは今後も会員皆様のご協力の元、発展して参ります。今後ともどうぞよろしくご願ひ申し上げます。

〈エンドレスハウザー ジャパン株式会社 山本 和彦〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会 ◆ 住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11
 ◆ TEL：06-6308-1011 (株)トーケミ内 安達 FAX：06-6308-1099
 ◆ LFPIホームページ <https://www.lfpi.org>